

2017年度九州若手数学者発表賞5名（あいうえお順）

### 第3回九州若手数学者発表賞受賞者と受賞題目・受賞理由

・上野佑介・福岡大学大学院理学研究科・博士課程前期2年

業績の題目：コンパクトLie群の分類空間のトポロジー

受賞理由：上野佑介氏は、コンパクトLie群の分類空間に関する研究を行い、その成果を日本数学会九州支部例会を含む国内外の研究集会において積極的に講演を行っている。その研究活動は九州若手数学者発表賞を授与するに相応しい。

・新庄慶基・大分大学大学院工学研究科博士前期課程・2年

業績の題目：ピタゴラス数とヘロン三角形に関する研究

受賞理由：新庄慶基氏は、代数体、楕円曲線の現代的な理論の応用に関する研究を行い、その成果を日本数学会九州支部例会等において積極的に講演を行っている。その研究活動は九州若手数学者発表賞を授与するに相応しい。

・高林 佑馬・九州大学大学院数理学府・修士2年

業績の題目：ファインマン-カツ型経路積分表示

受賞理由：高林佑馬氏は、場の量子論に現れるハミルトニアンに関する研究を行い、その成果を日本数学会九州支部例会等において積極的に講演を行っている。その研究活動は九州若手数学者発表賞を授与するに相応しい。

・松坂俊輝・九州大学大学院数理学府・修士2年

業績の題目：Arithmetic formulas for the Fourier coefficients of modular functions

受賞理由：松坂俊輝氏は、モックモジュラー形式や調和マース形式に関する研究を行い、その成果を国内外の多くの研究集会において積極的に講演を行っている。その研究活動は九州若手数学者発表賞を授与するに相応しい。

・山口大貴・九州大学大学院数理学府・修士2年

業績の題目：ねじり折りの平坦可折性

受賞理由：山口大貴氏は、単頂点折りの平坦可折性問題の $n$ 頂点折りへの拡張を主目的とする研究を行い、その成果を日本数学会九州支部例会に準ずる研究集会等において積極的に講演を行っている。その研究活動は九州若手数学者発表賞を授与するに相応しい。